不破関(町史跡)(岐阜県不破郡関ケ原町松尾)(不破関資料館)

不破関（ふわのせき）は、古代東山道の関所の一つで、現在の岐阜県不破郡関ケ原町にあった。「不破の道」と呼ばれたこの地の東山道に、壬申の乱の翌年（673 年）に関所として設置された。
東海道の鈴鹿関、北陸道の愛発関（後には逢坂関）とともに三関と呼ばれ、壬申の乱の後からおよそ 100 年の間、治安維持のため畿内と東国との間の通行を厳重に監視した。三関から東は東国または関東と呼ばれた。

歴史

- 672 年に発生した壬申の乱の際、大海人皇子（後の天武天皇）の命により美濃国の多品治によって「不破の道」が閉鎖される。この近辺が激戦地となっている。
- 673 年、天武天皇の命により、都（飛鳥浄御原宮）を守る為に、不破関、鈴鹿関、愛発関の 3 つの関所が設置される。
- 701 年（大宝元年）、大宝律令によって正式に定められる。
- 789 年（延暦 8 年）、天皇・太上天皇の死や病などを契機として三関が廃止される。しかし非常時に関の封鎖を命じる「固関」（こげん）の儀式が江戸時代まで続いた。徳川幕府により東山道が中山道として整備されたころと推測される。その以前から関所の機能はなくなっていた。

現在の状況

- 現在の岐阜県不破郡関ケ原町松尾が不破関の所在地である。岐阜県と関ケ原町の指定史跡。
- 発掘の結果、藤古川（揖斐川の支流である牧田川の支流の一つ）の左岸の自然の要害を利用した関所であり、北、東、南には土塁が設けられ、広さ 12 万 ㎡ に及ぶことが判明している。
- 敷地の一角には不破関資料館が設置され、発掘された和同開珎や陶器が展示されている。

その他

- 古くから和歌や俳句などにも歌われている。
    - 「人住まぬ　不破の関屋の　板庇　あれにし後は　ただ秋の風」（藤原良経）
    - 「秋風や　藪の畠も　不破の関」（松尾芭蕉）

などがある。

Wikipedia による

不破関跡

不破関資料館

壬申の乱の時に大海人皇子が
兜をかけたとされる兜掛石